

科目の内容（シラバス）

②授業科目名		③必修／選択の別	④単位数	⑤含む必須の教育内容番号	⑥担当教員名	⑦実施形態
日本語教育学		必修	2	3 4 6 7 13 19 20 21 23 24 25 26 29 31 34 39 40 41 42 43 44 45	中石 ゆうこ	対面
⑧授業のテーマ及び到達目標		【授業のテーマ】日本語教師として必要になる日本語教育学、日本語学の基礎的知識、および言語と社会、言語と心理、言語と教育の関係を知るとともに、日本語授業のあり方、社会と日本語学習者の関係に関する知識を得る。人と人、文化と人、社会と人をつなぐ仲介者としての日本語教師の役割を知る。 【授業の目標】【知識・技能】①日本語教育の基礎的知識を得て、専門用語を適切に使用できる。②「やさしい日本語」など言語調整に関する基本的知識を持ち、適切に運用できる。【思考・判断・表現】③日本語を母語としない学習者の視点から日本語を客観的にとらえることができる。【主体性・協働性】④日本語教育をめぐる国内外の諸課題について知り、他者とともに考え、自分自身の意見を表明できる。				
⑨授業の概要		日本国内外で日本語を母語としない学習者を対象にした日本語教育が行われている。この授業では日本語教育学の諸分野、および日本語教育をめぐる国内外の課題について広く、基礎的な知識を得たうえで、グループワークで議論を行って、さまざまな考えを共有したのち、ふりかえりを通して自らの考えを深める。「やさしい日本語」など言語調整の意義や用いる際のルール、注意点を知り、作成の演習を行う。				
⑩授業計画						
授業回等	各回の授業内容					各回に含む必須の教育内容番号
1	オリエンテーション 日本語教育とは (日本語教育の対象者とは、学習者の日本語運用について)					3・29
2	日本語学習者とは 国内・海外の日本語教育事情 (日本国内及び主要な国・地域の日本語教育の状況について、多言語多文化社会における日本語教育の役割)					3・7
3	国内外の日本語教育事情 日本語教師とは (日本語教育人材のキャリアパス、求められる資質・能力について)					20
4	日本語能力の測定と試験 学習者の日本語能力 (学習者の日本語能力を評価する試験について)					6
5	学習者の日本語能力 日本語教育の実際 (日本語教育における評価に対する考え方や方法について)					6・26・31
6	さまざまな教授法 (多様な学習者や環境に応じた教授方法、様々な外国語、第二言語教授法について)					24
7	学習レベルと教材・教具 (目的・対象別の日本語教育プログラムについて、日本語教育における教材の分析方法について)					21・23・25・31

8	学習者の目から日本語を見てみよう 教えるための日本語の知識①音声・表記 (日本語を分析的に捉える方法、日本語の発音指導に関する音韻・音声の知識、日本語の文字指導に必要となる日本語の書記体系に関する知識)	39・40・41
9	学習者の目から日本語を見てみよう 教えるための日本語の知識②文法・語彙 (日本語の形態論と語構成、語彙指導に必要となる知識)	39・42・43・44
10	学習者の目から日本語を見てみよう 教えるための日本語の知識③文法 (日本語教育のための文法体系、指導上に必要となる分析方法)	39・42・43・44
11	学習者の目から日本語を見てみよう 教えるための日本語の知識④意味・語用論 (日本語教育のための意味体系に関する知識、日本語教育のための語用論的規範)	39・42・43・ 44・45
12	日本語教育と社会 ティーチャートークとやさしい日本語① 「やさしい日本語」を使ってみよう (国や地方自治体の多文化共生施策、地域社会における学習者と周囲との接触の状況について)	3
13	日本語教育と社会 ティーチャートークとやさしい日本語② 「やさしい日本語」を使ってみよう (国や地方自治体の多文化共生施策、地域社会における学習者と周囲との接触の状況について)	3
14	日本語教育の歴史 (教育観、日本や他国・地域の中での日本語教育の歴史について)	3・4
15	これからの日本語教育 (これからの共生社会における日本語教育の役割、日本語教育人材に求められる役割、学習に影響を与える心理的要因や学習者の心的側面)	3・13・19・34
16	期末課題に向けた情報収集	
⑪使用テキスト		森篤嗣編(2019)『超基礎日本語教育』くろしお出版
⑫参考書・参考資料等		名嶋義直・野呂香代子・三輪聖(2023)『対話を通して学ぶ「社会」と「ことば」日本語×民主的シティズンシップ』凡人社、『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』(スリーエーネットワーク)、高見澤孟編『新・はじめての日本語教育基本用語事典』(アスク出版) など
⑬同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)		
⑭学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)		
⑮学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)		理解確認課題(20%)(到達目標①②) 事前課題・議論でのパフォーマンス(20%)(到達目標①②③④) ふりかえり(10%)(到達目標③④) 期末テストまたはレポート(50%)(到達目標①②③④)